



家づくり 街づくり 人づくり

# 建築ふくい

一般社団法人 福井県建築組合連合会

国庫補助の拡充を要請!! 1面  
 坂井ブロック活性化事業 3面  
 親会と青年部 意見交換会 3面  
 建築基準法改正後の完了検査 4面

http://www.kenchiku-fukui.com  
 e-mail: info@kenchiku-fukui.com



発行/(一社) 福井県建築組合連合会 〒910-0859 福井市日之出5丁目4番7号 電話 0776-54-2615 FAX 0776-54-8878 発行人/竹島正和 編集/教宣委員会

## 第65回 全国青協定期大会に参加して



全国青協定期大会を終えた幹部の方々

2月8日・9日に東京の林野会館にて行われた全国青協定期大会に参加してきました。福井にいると雪景色は見慣れたものですが、この日の東京は朝から雪に覆われており、街の公園では、たくさん子どもたちや親子連

れの雪と戯れる姿が私にとっては逆に見慣れなくて驚いたほどでした(だって福井じゃ雪が降ったら誰も外に出て遊んでないですよ笑)。大会では小西全国青協議長のあいさつから始まり、全建総連西書記次長から、国保組合予

でした。実際やつてみると正直大変なところもありましたが、代わりにはかえりがない全国での仲間や青協幹事としての視点や考え方を教えてもらうことができたと思っています。(たぶん笑) 今後はその経験を活かし、単組・

算2720億円やハガキ要請活動117万枚などの中央情勢報告がありました。私も全国青協幹事として建設産業をめぐる動きについての議案書を発表しました。大会ではたくさんの方の事前質疑があり、分科会でも盛んな意見を交わすことができた。意義のある時間を過ごすことができたのではないだろうか。

今回の定期大会で、私は任期満了につき全国幹事という大役を退くことになったのですが、役を受けるまではなかなか踏み切ることができません。青年部と基本組合との橋渡しとなれるよう微力ながら力になりたいと思います。

11月27日～12月12日にかけて、地元国会議員に対して国保組合への国庫補助の拡充について要望をおこないました。山崎正昭参議院議員、稲田朋美衆議院議員、滝波宏文参議院議員、辻英之前衆議院議員、波多野翼前衆議院議員、芥木武志衆議院議員の各事務所を訪問し、議員本人、または秘書あてに「国民医療への公費助成の拡充」、「国保組合に対する国庫補助の拡充」そして「建設国保の育成・強化」を要請するとともに、福井県建築業界の現状と課題など意見交換をしました。

## 地元選出国會議員に対して、2026年度国保組合への国庫補助の拡充を要請!!

11月28日に実施された全建総連予算要求中央行動においては、全体会議の後、厚生労働省保険局および内閣府(防災担当)に対して要請訪問をおこないました。また、今回はインボイス制度において、「2割特例」や「8割控除」といった事業者の負担軽減措置が2026年

までとなつていくことを踏まえ、「適格請求書等保存方式」インボイス制度の負担軽減措置延長を求めるとともに、組合員のみなさまに

お願いしております。算確保に向けたハガキ要請行動とともに、今後も福井県建築業界の現状と要望を地元選出国會議員に粘り強く伝えていきたいと考えています。

全国青協幹事 谷口喜則



稲田朋美衆議院議員



山崎正昭参議院議員



波多野翼前衆議院議員 秘書



辻英之前衆議院議員 秘書



滝波宏文参議院議員

事務局長 鈴木芳暢

# 第66期全建総連 全国組織活動者会議の開催



第66期全建総連全国組織活動者会議

組織拡大活動に向けて

全建総連組織部主催の全国組織活動者会議が1月29日・30日の1泊2日の日程で、静岡県熱海市の「ニューウエルシティ湯河原」でおこなわれた。

全国34県連112名が出席し、福井県建築組合連合会からは、企画委員会を代表して私が出席した。

京での開催だったが、2日間の滞在時間に充分な交流をしたという思いから今回の会場設定になったので、参加者の方々はこの機会を大いに活用していただきたい」とあいさつがあった。

中央情勢報告で西書記次長は、「ハガキ要請行動の成果もあって国の予算案が前年比104億8千万円増になった。医療費が高額になっていく中でかなり大きい。会員の負担が少しでも少なくない」と感謝を述べた。

基調報告では竹谷組織部長が、「今年度の組織拡大活動は対話重視の訪問で基礎組織を活性化し実増に努める」として、皆さまにお願いしてきた中で、様々な情報が伝わってこないという課題が見えてきた。改めて仲間の持つつながりを引き出すことを目的に引き続きの行動をお願いしたい。」と発言した。

次に、経験報告として、岐阜建労「初めての書記局向け組織研修会」と建設長崎「青年部の拡大訪問行動」0から1をつくる。初のふれあい訪問行動への挑戦、東京都連・東京土建「基礎組織の再生に向けて」分会活動経験交流の取り組み」の報告があり、そのあと質疑・応答をおこなった。それぞれの県連でこの行動に対して、評価や課題など詳しい内容を確認した。休憩後、各部屋に分かれて分科会が開かれ、私は第1分科会の基礎組織の再構築・再生・活性化に参加した。

自己紹介と合わせて各県連での取り組みを報告し、質疑・応答をおこない、参考になる情報や同じような課題を持っていることがわかり1日目は終了した。

2日目は分科会の続きから始まり、各県連で支部との関わり方や情報共有の仕方を発表し、課題となっていることを相談し参考になる他県連の事例も発表された。中でもたくさんの意見が出たのは役員の手不足で、会員の高齢化や若年層が少ないことへの関係性も指摘された。対策として神奈川県連や埼玉土建では、とにかく交流を多く持ち、顔を合わせる機会を増やす、役割を与える、目的意識を持つて行動することが大事との報告があった。他にも事業所への対応の仕方や外国人会員の対応のアップローチの仕方など、活発に意見交換をおこなった。分科会終了後、全体を通じた質疑があり、竹谷組織部長が総括して全日程が終了した。

前日に引き続き今回も各県連青年部から8名の参加があり、次世代の参加者は今後多くなることを期待しつつ、組織の再構築や活性化につながる検討を青年部とも連携して企画委員会を中心に活動していきたい。

企画委員長  
南 信博

## 北信越青年協議会役員会

1月24日・25日、新潟県新潟市クロスパルにいがた3階多目的ホールにて、北信越5県の計22名で北信越青年協議会役員会が開催されました。

福井県からは、全国幹事の谷口氏と私を含め青年部役員4名が参加しました。

役員会では最初に北信越青年協議会五十嵐会長のあいさつがあり、「悪天候の中での新潟開催にもかかわらず来ていただきありがとうございます。今日この会を通じて北信越を盛り上げていきましょう。」と参加者への感謝と抱負を述べました。

次に全国幹事の谷口氏と私を含め青年部役員4名が参加しました。

より、次年度に北信越全県の青年部で行う訪問行動について各県での目標に関する発表がありました。

議事に入り最初に、昨年11月頃から1月終わりまでの青年部活動を各県部長より報告、他県の活動報告に対して質疑・議論を行いました。

次の全国青協統一行動についての議題では、来年度に行う訪問行動について各県の訪問件数の目標値を発表し、その訪問行動をもとにして新規役員の増勢数の目標値も決まりました。

夜には懇親会があり、隣県の仲間との情報交換はとても勉強になり、より一層の親睦の場となりました。

翌25日は朝早くの解散で、北信越青協役員会全日程を終えました。

会を重ねることに、福井県青年部としても、参考にすべきことなどの気付きがあり、今後の北信越・全国などの集まりに1人でも多くの役員が参加できれば熱い思いを共有でき、福井県青年部活動もさらに盛り上がり、と確信しています。

青年部長  
土田 洋輔



極寒の地で熱く議論する各県の青年部役員



